

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	28 地球温暖化対策の推進	
総合評価（検討が必要な事項）		対応内容
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> 総合分析は概ね妥当であるが、業務部門と家庭部門の2部門で二酸化炭素排出量の増加率が多いため、これらに対する削減対策をより具体的に分析する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 2部門の削減対策が課題と認識しており、一定の記載をしておりますが、次回の白書の分析では、具体的な方策なども含めて分析します。
<ul style="list-style-type: none"> 2006年の速報値などの最新データの記載がないが、出せないのであればその理由を明確にすることが必要であり、また、グラフ等も見やすくする工夫が必要である。 分析を行ったデータについては、白書において表示する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 4月25日の部会後に、公表した2005年実績値、2006年速報値で、データを整理し、その結果に基づき、分析を修正しました。また、あわせてグラフ等も修正しました。
<ul style="list-style-type: none"> NPOとの協働で行うの取組みの内容や、人材育成の方法など具体的に記述する必要である。 どのようにして人材を育成するのかについても、具体的な対策を記述して欲しい。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校での環境教育などでの協働など一定の記載をしておりますが、次回の白書の分析に当たっては、御指摘の点を配慮していきます。
<ul style="list-style-type: none"> 全国的に進められていることなので、国（マイナス6%）と県の目標設定のちがいを説明した上で、その観点からの分析が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 次回の白書の分析に当たっては、御指摘の点も踏まえた分析を行います。 注釈に国の - 6%との違いを追加します。
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> 京都議定書目標達成計画のエネルギー起源二酸化炭素の削減目標（+0.6%）以上としているが、今後は適切な目標水準であるか検討する必要がある。 県としても家庭部門から排出量何%減など、各部門ごとの目標設定を検討する必要がある。 CO₂の排出削減だけではなく、緑化などによるCO₂の固定化や蓄熱容量を低下させる観点から地球温暖化対策を進める必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 現状と照らし合わせるとかなり厳しい目標であります。現在検討中の地球温暖化対策推進条例（仮称）を今年度内を目途に制定し、県民全てが力を合わせて地球温暖化を防止していく体制を整え、目標達成を図っていきたく考えています。
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> マネジメントシステムの導入社数、マイアジェンダ登録者数、エコポの登録者数ために、ネットや広報誌においてインターネット版環境家計簿“エコポ”の一部を紹介するコーナーを作ったり、マネジメントシステムを導入した企業をひと月ごとにピックアップして紹介するなど施策の工夫も検討する必要がある。 クリーンな自動車社会の実現に向けて、エコドライブなど個人への協力の呼びかけを強化する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施する中で、対応を検討します。

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	29 循環型社会づくり	
総合評価（検討が必要な事項）		対応内容
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> 総合分析は概ね妥当であるが、一般廃棄物の削減について、効果が期待できる県民、事業者、NPOの取組みについて、幅広く分析・評価する必要がある。 分析に当たっては、「廃棄物自主管理事業への参加事業者数」や「廃棄物監視パトロール」などのグラフを活用する必要がある。 不法投棄も重要な課題であるため、パトロール回数以外の総量や地点などの指標を踏まえて分析する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 次回の白書で、総合分析として実情や実施にあたっての課題等の分析を加えます。
<ul style="list-style-type: none"> 「再生利用量」と「減量化量」が示していることの説明が必要である。 		<ul style="list-style-type: none"> 「減量化」については、注釈を加えました。
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> 今後、一般廃棄物、産業廃棄物ともに排出量などの推移も勘案して実現可能な目標水準になっているかどうか検討する必要がある。 産業廃棄物の排出量については、産業の発展などを見込んだ目標設定を行ったことを記述する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 次期計画に向けて、検討します。
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> 最終処分場が一杯になると、新たな最終処分場の設置に伴う問題や経費の増大などという負担が生じることの危機感を県民が持つよう周知を行う必要がある。 一般廃棄物については、小学生や中学生などが参加できるよう学校でゴミの減量プロジェクトから、家庭につなげる方策を検討する必要がある。 企業・行政・地域・家庭・個人などに対する明確な目標管理を検討する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施する中で、対応を検討します。

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	30 丹沢大山の自然再生の推進	
総合評価（検討が必要な事項）	対応内容	
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>総合分析は概ね妥当であるが、ニホンジカの過密化が植生劣化の最大要因としているので、シカの生息密度と植生劣化関係のデータを示した上で、分析することが必要である。</u> ・ 植生劣化と人間活動の影響の関係も分析する必要がある。 ・ 総合評価の三段落目について、植生回復のような変化の見えにくい指標については、保護柵の設置やエコツーリズムの実施状況などの達成状況も含めて記述する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の白書では、御指摘の点も踏まえて分析します。 	
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、計画期間内に目に見える成果が確認できるような指標も検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期計画に向けて、検討します。 	
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹沢大山近隣のふれあいの村などの公的な施設を活用して、次世代の担い手をつくる事業を進めることが重要である。特に周辺で環境を支える人の減少や高齢化が今後の課題となってくるので、<u>川崎・横浜地域や県央地域など都市住民や若い世代の人たちが関心を持って取り組めるような仕組みを整えていく必要がある。</u> ・ 目標実現に向けた具体的な対応策が明確ではないことから、取組みの一層の強化が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を実施する中で、対応を検討します。 	

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	3 1 都市と里山のみどりの保全と活用	
総合評価（検討が必要な事項）		対応内容
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>総合分析は概ね妥当であるが、市街地におけるみどりのスペースが、2005年～2006年にかけて増加しているにもかかわらず、県民満足度が下がっていることについて検証する必要がある。</u> ・ 「みどり」という言葉が示す範囲が広いので、都市地域（都市公園など）と郊外地域（里山など）のみどりの役割を整理した上で、分析することが必要である。 ・ 総合分析で、「みどりの県民意識」を使うことも良いが、より具体的に行っている事業などのデータに基づく分析も必要である。 ・ 今後の対応を行う主体は誰なのか示す必要がある。また、県民、NPOなどの連携・協力の内容について記載する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定の検証等は行っておりますが、次回の白書では、その点を踏まえて評価します。
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、市街地内におけるみどりのスペースだけでなく、郊外地域のみどりについても目標設定が可能かどうか検討する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期計画に向けて、検討します。
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川を軸に、農地の位置づけも含めたみどりのネットワークを検討する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期計画に向けて、検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>指定した緑地や再生した里山などの「みどりのスペース」を、地域でどのように利用し、だれが、どのような手法で守っていくかの具体的な対応を検討する必要がある。</u> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を実施する中で、対応を検討するとともに、次期計画に向けて、検討します。

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	3 2 水源環境の総合的な保全・再生	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>総合分析は妥当である。</u> ・ 目標の達成状況の分析についても記載内容は適切である。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合分析の1段落目において、意識調査を取り上げているが、何と比べて1位であるのか明記する必要がある。重要度が他と比べてどう違い、違うのはなぜなのか、そこにどのような意味があるのかなどを詳細に分析しないと理解ができない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 白書の内容を「全ての政策分野の項目の中で1位」などと修正します。
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質の改善など、水源環境を保全する事業のデータを取り上げることにについて検討する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期計画に向けて、検討します。
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水源の保全・再生は、公益に貢献するところが多く、森林所有者のみの力では限界があるため、公的なサポートを行う必要がある。 ・ 水の使い方について、例えば、ダムの施設利用者や川の下流の人など、<u>水源の受益者に水源の重要性について強く意識させる取組みを進める必要がある。</u> ・ 依然として水源地が荒廃している状況があることから、取組みの一層の充実を図る必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を実施する中で、対応していきます。